

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	令和6年度未来の養父市を語るタウンミーティング		
期 日	令和6年6月26日（水）19：30～21：20		
場 所	熊次コミュニティスポーツセンター		
出席者	市民	29名	
	市役所	広瀬市長、米田教育長、雲田理事、羽瀧経営企画部長、細田産業環境部長、井上市民生活部次長	
		（事務局）経営政策・国家戦略特区課 小野山課長、圓山、北添	
	担当チーム	田中、長村	
<p>「テーマ1 県道87号線の整備について」</p> <p>熊次校区内の梨ヶ原以西ハチ高原までの間で、梨ヶ原～奈良尾（旧小学校下）までの間及び大久保からハチ高原に至る間の拡幅2車線化はこれまでから度々要望しているが実現の目途が立っていない。氷ノ山、ハチ高原へのアクセス道路であり、観光振興、また地域住民の生活にも不可欠である。市からも県に要望していただきたい。</p> <p>市長：この件については我々も県に要望を続けているが、まだ実現に至っていない。昨年度、鹿倉口橋開通の際に県議もお越しになっていたのも、地域の代表の方々と一緒になって国と県に道路整備についての要望書を出させていただいた。その中にこの県道87号線についての要望も取り入れさせていただいているところ。これからも、我々も一緒になりながら強く要望していきたいと考えている。</p> <p>現地の状況を見ると厳しい状況にあるが、県も財政上の問題等でなかなか前に進むことはできないと言われる。しかし、諦めずにしっかり要望していく。</p> <p>理事：6/25に、出合コミスポで関宮の県道改修促進期成同盟会定期総会が開催され、この県道87号関宮小代線、福岡出合線の道路整備について陳情や要望活動の報告があった。会員は区長や市議会議員、観光協会支部長など25名。養父土木事務所から、今年度は中瀬足坂間、尾原の三叉路手前の道路用地買収を行う予定とのこと。その他の要望については今後協議していくという説明を受けている。</p> <p>市民：道路行政はダメだと思っている。行政の責任だけではないが、県道が大久保で止まって40年くらいになる。基本的にカーナビで来られると、国道、県道、市道の順に案内される。大久保の上手まで行ってから引き返さなければならないのは非常に</p>			

迷惑をかけている。県も事情の説明がなく、動きださないのが不思議で仕方ない。この自治協で最大の課題と考える。市道において細切れのラインが気になっている。

もう一点、ハチ高原は丹戸と大久保の住民が住んでいるが、区長になる場合が多々ある。冬に大久保方面に入れないので、別宮回りで村に行くことになる。緊急を要するときに無理が生じる。将来的に横角線を除雪し、役員がすぐに入れる状況を作っていくことが必要と考える。

市長：市内には3つの合併促進バイパスがあり、大屋はまだやっている途中。この秋に完成し、20年経ってやっと終わる。県道に関して出合から上は未整備の状況と考えている。期成同盟会の役員の方と一緒に県庁、国に要望しに行くことも必要と考える。

市道のラインについて、維持管理については限られた予算でしなければならない。1000を超す路線で延長は約500km、白線などの補修も大変なので最も損傷の激しいところから行っている状況で、計画的な部分が必要と考える。今年度は関宮で葛畑大久保線の補修を優先させてもらっている。

理事：市道は部分的に悪いところだけ補修を行っている状況。白線もその部分だけ引き直して対応している。県道も同じ状況で、水道工事後もその箇所だけ舗装している。計画的にできるよう考えていきたい。

市民：路線バスについて。観光バスが通る道に路線バスも変更してはどうか。大久保で降りて先に行けないのはおかしいと思う。原因があるのは分かるが、そこを解決することが大事。

10年ほど前に区長をしていた。当時、地区内に傷んだガードレールや道路の悪いところを見てもらった。市からの対応は、市内に同じ状況のところはたくさんあるので優先順位をつけて行っていると返事があったが、10年経ってどこも直っていない。声の大きい地区は早く直っているとも噂を聞いている。

市長：声の大きいところだけということはない。路線バスのルート変更は地域の合意やバス会社の意向などが一致すれば可能なことだと考える。

市民：氷ノ山の登山道整備について。東尾根ルート、足場の木の腐食がひどく、場所によっては釘がむき出しで危険な状態。登山客の負担も増える。養父市が誇る氷ノ山なので、都会の人が安心・安全に登ることができることを願っている。

産業環境部長：氷ノ山登山道については、地元観光協会に維持管理を中心に補助金等を交付しお願いしているが、木道の整備を行うほどの予算は確保できていないので、安全面からも市として対応を考えていきたい。

「テーマ2 安全な避難場所の確保について」

熊次コミュニティスポーツセンター体育館が、外野区、草出区、丹戸区の指定緊急避難場所となっている。これについて以下の問題があると考える。

①外野区、草出区からは距離的に徒歩での避難は難しく、車を持たない高齢者は自力避難が難しい。途中で道路冠水が想定される場所も複数あり、特に夜間の降雨時には避難時の安全確保が難しい。

②現在、避難経路は熊次コミュニティスポーツセンター東側からの1方向しかないが、市道の道幅が狭くカーブもきつい。また、避難経路自体が土砂災害警戒区域に含まれており、過去の大雨時に道路と施設入口に土砂が流出し避難が困難となった事例もあった。

以上のことから、次のとおり要望したい。

①外野区、草出区については、高齢者避難指示に即応するため、徒歩でも避難可能な近隣の避難場所を確保いただきたい。（一例として、旧熊次診療所跡の文化財倉庫）

②熊次コミュニティスポーツセンター体育館に車で避難する想定の新設の避難経路を新たに作っていただきたい。西側に道路に面した、使わせてもらえる駐車場があるので、ここから直接体育館に避難できる、車椅子等でも通れる通路を整備いただきたい。

市民：補足として、文化財保管庫を避難場所に指定いただけたところ。ただ、施設が狭く設備も十分でないため、整備をお願いしたい。同時に、木造の医師住宅が隣接しており、活用されていないため、取り壊して何か地域の中心になるようなものを建てていただけないか。

理事：危機管理監が欠席のため、代わりに答えます。区長のおっしゃるとおり避難場所の指定は完了したとの報告を受けている。

文化財保管庫は選挙の投票所としても活用。文化財を関宮地域局別館に移設する準備をしている。この案件を持ち帰り担当課と協議し、移設が可能となれば区長さんに報告させてもらう。

隣の医師住宅について。今のまま使うのは困難で、新しく何かを建てるのも難しいと考える。スペースがあることは認識しているので、その場所の活用については、区

長さんとも一緒に考えていきたい。

体育館の通路について。昨年、要望書を受け回答していると聞いている。私有地駐車場からプールを横断してグラウンドにおりるというもの。建設課から民地上の市道整備ができないと回答している。コムスポとしての通路ということであれば、協議の余地がある。民地を通り抜けるのでコムスポ土地の所有者も交えて協議が必要と考える。

市民：経緯に誤りがあるので説明する。当初から市道整備は頼んでいない。駐車場、奈良尾区の里道の使用許可は取っている。建設課の責任者が来られて、あくまで緊急避難通路の整備ということで具体的な協議も行った。しかし、見当はずれの回答であった。

理事：昨年の回答を読んで、市道整備という言葉に違和感があった。今回の件については、プールの解体を先に実施することも検討案の1つであると考える。

市民：当時の担当からプールの一部分を簡単に埋めたり、足場を設置したりすることで容易にできそうだと聞いていた。そんな話をした後に全然違う回答が来た。

市民：補足として。市道を付けてほしいとお願いしているわけではない。避難場所の入り口が一カ所しかなく、前回濁流で入れなかった。西側にもう一カ所入口をつくってほしいだけ。車をグラウンドまでおろせたら一番いいが、駐車場に停めてそこから人が渡って体育館に避難できればいいと考えているので検討いただきたい。今のままでは避難場所に避難ができない。

市長：承知した。

「テーマ3 社会的処方について」

養父市の重点施策として社会的処方があげられている。どのような施策を展開するのか、また、住民はどのように関わることになるのか、分かりやすく説明願いたい。

[経営企画部長から説明]

※質問・意見無し

「テーマ4 関宮小さな拠点整備について」

エイドホール跡地に拠点を整備するとのことであるが、目的、全体像、期待できる効果などが分かりにくい。検討会から市の広報とともに刊行物の配布もあるが、整備の方向性や方針が伝わってこない。また、旧役場周辺の中心地には恩恵があっても、遠い熊次地区には及ばないのではという声も聞く。改めて分かりやすく説明願いたい。

[市民生活部次長から説明]

市民：小さな拠点、地域住民に要請があり会議に参加しているが、会議が進むにつれてだんだん分からなくなっている状況。実際に熊次地区住民の利用があるとは思えない。買い物や食事ができる場所がないので、そこで集まってできるようになってほしい。話が具体的に進んでいるのか聞きたい。関宮の自治協がそこに入ると聞いているが、地域全体のことを考えるとそれはおかしいと思っている。

市民生活部次長：住民会議によりコンセプトシートが完成した。現在、配置計画等を検討中で、7月の会議で図面等を用いて協議予定。自治協事務所、訪問看護事務所、社協事務所を入れる話は出ているが、先ほどの意見などを踏まえた協議の余地がある。コミュニティ施設は令和7年度中に完成予定、高齢者滞在施設は令和8年度完成を目指して進めている。

市民：世の中は人とモノとカネで動く。人が集まるためには、一定の経済活動があり、お金や雇用で人を惹きつけることで人が入って活力が生まれると考える。そのような視点も取り入れていただきたい。

市民生活部次長：食事をする場所、日用品が買える場所の確保を考えている。集まってきた人がそこに携わり生きがいを感じられる場所を目指している。皆さまの意見を聞かせていただきたい。ある程度固まれば説明会を実施する予定。

市民：遺族会の会合、年々高齢化している。市からの助成もなくなった。戦争で亡くなった方々のおかげで現在があると考え。関神社の高台の上に慰霊碑がある。清掃等の負担が大きい。拠点の片隅にでも移転いただけると助かる。

市長：他にも同じような話を聞いている。市としてできることはやるが、できない部分もある。遺族会の慰霊碑を移動するのは難易度が高いと理解いただきたい。犠牲に

なられた方を軽んじるわけではないが、今の国の平和はその方々のおかげ。今日お聞きしたので、改めて考えさせていただく。

「市政全般についての意見交換」

市民：河川愛護の活動の際、黒いネット（河川の流れを変えるために沈めたもの）が落ちていた。写真データや箇所図を作成し、市のメールに送ろうとしたが、担当者が無害化に時間がかかるためFAXにしてほしいと言われた。養父土木事務所はすぐに受け付けてくれて、既に対応も完了している。デジタル化を進める市の対応としてそれでいいのか疑問。防災の観点から言えばまず現場に行くと考え。私が土木事務所に勤めていた頃も苦情対応はそのように部下に指導していた。東京の消防庁でも、LINEで動画を見ながら指示する例もある。災害時はスマホ等を活用した情報共有も必要と考えるが、市の方針はどうか。

市長：情報は映像で送ってもらって問題ない。指導が行き届いていなかったと考える。

経営企画部長：災害現場等で視覚的に動画や画像で送っていただけるとありがたいこと。市の政策でデジタル化を進めると言いながら、私たちの意識が低い部分が阻害しているかもしれない。そのような事例を用いて、今後はそのようなことがないよう取り組みたい。

市民：関宮学園のクラブ活動の選択肢がほぼ無いと聞いている。生徒数が減っていることによる問題だが、大人は子どもたちに多様性を持ち、自分で判断しなさいというが、クラブに関して子ども達に選んで判断する余地がない状況。子どもはどう感じているのかを聞いて、対応をお願いしたい。

教育長：学園前期は現在約150人、統合時は200人を超えていた。部活動は選択肢を増やすため地域移行を進めている。地域のクラブ活動に通うための補助金も検討中。女子は吹奏楽かバスケ、男子は野球かバスケか吹奏楽、野球は八鹿青溪中と合同チームとなっている。部活動の選択肢が少ないと、子ども達の学校の楽しみや多様性に関して大きなハードルとなっている。熊次でもスキーなどの地域クラブを立ち上げていただきたい。子どもたちが地域に暮らして良かったと思えるクラブをお願いしたい。

市民：いろんな課題があるが、人口が減る一番の要因は経済的に成り立っていない結

果と考える。熊次地域において、ここ 30 年で豊かになった人はほぼいないと思う。世界競争力ランキングで 38 位、韓国や中国にも抜かれている。これは国策の間違いによるもの。消滅都市以上の早さで熊次はダメになる。スマートヴィレッジや農業特区など、熊次ではあまり関係のない話。新たな産業より、既に投資された産業にテコ入れする方が合理的ではないか。ハチ高原 20 軒弱の宿があり、うちエレベーター設置は約半数。障がいのある生徒の受入ができず、地域に移ってしまうこともある。昨年か一昨年に地元金融機関から補助金の制度案内があったが、申請期限の 1 週間前だったため活用できなかった。

交流促進センターに 2 階の広間があるが、吹奏楽部の大型楽器も階段から搬入している。2 階で会合した際に障がい者も苦勞していると考え。市としてバリアフリー化を進めるべきではないか。

市長：特区の規制改革に金はかかっていない。制度を変えた後に既存の支援施策を活用いただくものという点をご理解いただきたい。今までの産業をより良くするために新しいことに挑戦することが大切と考える。金融機関の対応、行政からの情報の出し方に問題があったと考える。バリアフリーについても何らかの策を打っていきたい。豊かになっていないのは熊次だけでなく日本全体の問題。どこかで大きく切り替えることが重要であり、国には頑張ってもらいたいと考える。